

全酪連会報 5

2017 MAY No.620

若手後継者の本音／小泉大輔さん

酪農とのかけはし／丸山知美さん

監査室だより／組織と内部統制②

購買部だより／カーフトップ50周年企画 カーフトップ：インタビュー

酪農トピックス／「第46回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会」開催

関東甲信代表は、関岳彦さん、前田匡彦さん（東京）ほか

酪政連活動報告

日本酪農見て歩紀／北海道阿寒郡鶴居村 インクリースフィールド増田牧場



Z
E
N
R
A
K
U
R
E
N



全国酪農業協同組合連合会





カーフトップ50周年企画

カーフトップ：インタビュー

「温故知新」 広島酪農業協同組合 / 武田牧場 武田偲さん

はじめに

本会代用乳である「カーフトップ」という名前は公募により決定された事を御存じだったでしょうか。この「カーフトップ」の名称は、旧広島県東部酪農業協同組合連合会の購買課長をされていた小林庄司さんが名付けてくれました。

そこで今回、カーフトップ供給当時を知る旧広島県東部酪農業協同組合連合会の職員であった武田偲さんに話を伺うため、広島県へ取材に伺いました。



▲取材先の広島県酪農業協同組合

取材先① 広島県酪農業協同組合

2月初旬、カーフトップの名付親である小林さんが所属していました。広島県酪農業協同組合へ取材に伺い、広島県酪農業協同組合の職員の方に、当時の情勢や思い出を伺いました。

当時のカーフトップについて教えて下さい。

実は私の家も酪農家で、私が小学生に上がる前から、両親の手伝いで哺育作業をしていました。その当時、泡立て器でかき混ぜても、溶けが悪くてダマになりやすかった。哺乳瓶に入れて子牛に与えようとする乳首にダマが詰まるものだから、ダマを手で砕いていたよ。当時も子牛は非常に高値でしたので、良い子牛を作ろうと努力していました。

私が小学5、6年生の時には、両親に「この子牛を大きくしたら、一眼レフカメラを買ってやる」と言われてね、F1だったけど、頑張つて、それでカメラを買ってもらったのを覚えている。当時では一眼レフカメラは高嶺の花でね、それが私と一眼レフカメラの出会いになりました。(笑)



▲一眼レフカメラで撮られた写真

※広島県酪農業協同組合では、「酪農コミュニティ」情報誌「らくのうだより」を発行しており、「飛躍」二月号にはカーフトップの50周年について掲載して頂いております。

カーフトップは50年経過しましたが、今の全酪連に求める事を教えて下さい！

まずは先人の方々の努力に感謝しないといけないと思います。今のカーフトップがあるのは、昔から並々ならぬ努力をしてきた先人のおかげ。我々も実践しているが、酪農業界の歴史を意識し振り返る事が大切。時代ごとにポイントがあつて新たな政策、取組が始まっている。しかし、時間が経つとその時の時代背景から始まった取組の意義、当時の努力を皆忘れていく。

カーフトップ50周年を機に、今の全酪連の若手職員にはぜひ、製品の歴史を知って、『全酪連は酪農業界に対し、何を行ってきたか』を学び、誇りをもって、仕事をし酪農業界に貢献してほしいと思います。

※広島県酪農業協同組合は、平成6年より広島県18専門農協の合併により発足。平成7年には広島県東部酪農業協同組合連合会、広島県西部酪農業協同組合連合会、広島県酪農業協同組合連合会の権利義務を包括承継。県単一酪農協となっています。

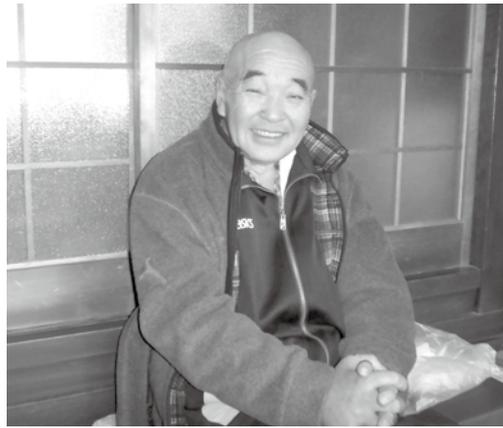
広島県酪農業協同組合のHPアドレスは以下の通りです。

<http://hiroraku.or.jp/>



取材先② 武田牧場 武田偲さん

武田偲さん（71歳）は昭和49年から和牛繁殖を本格的に始めましたが、その前の昭和43年から旧広島県東部酪農業協同組合連合会の職員でした。当時のカーフトップとともにカーフトップの名前の由来について、伺いました。



▲取材を受けて下さった武田偲さん

「カーフトップ」の名前の由来を教えてください。

『カーフトップ』の名前は当時私の上司であった購買課長の小林さんが名付けたということは、直接本人から伺っていません。残念ながら由来については聞いた覚えがありません。

カーフトップという名前を付けた事を知った購入側の農家さんの反応はどうでしたか？

供給当時、よく農家を回っていたのは小林さんでした。私自身、当時の酪農家の反応はわかりませんが、地元の小林さんが名付け親だということは、皆知っていたと思いますよ。私のわかる範囲ではありませんが、広島県では当時、旧東部酪連の他に西部酪連、広島県酪連が存在し、東部酪連管内には1800戸の酪農家がいる、全酪連の飼料を非常に多くの酪農家が使用していました！今でも旧東部酪連の全酪連ユーザーは多いと思います。



▲供給当時のカーフトップ(左) カーフトップと併用されていた脱粉飼料(右)

また、当時の東部酪連の倉庫の代用乳はカーフトップしかありませんでした。他には脱粉飼料がありました。

当時の酪農家は、全乳で哺育するのが主流でしたので珍しさはあったと思います。

現在、和牛繁殖農家として、カーフトップEXを使用されている農家が、使い始めてから何か変わりましたか？

体高が伸びますね、市場に出す他の牛とは偉い違いです。昔は10ヶ月ほど飼育しなければ市場へ出荷しませんでした。今では発育が早いので8~9ヶ月ほどで市場へ出荷できています。

私自身、旧東部酪連にも勤めていましたので、全酪連の飼料を扱っていましたが、『全酪連のカーフトップに勝るものなし！』とと思っています。他製品を使ったことがありません。

他の酪農家にも勧められていますよ。

終わりに

今回の取材で印象付けられたのは、『全酪連の代用乳は全酪連のみ力だけで、供給開始50年を迎えられ



▲和牛4ヶ月齢。カーフトップEXは美味しかったですかね？

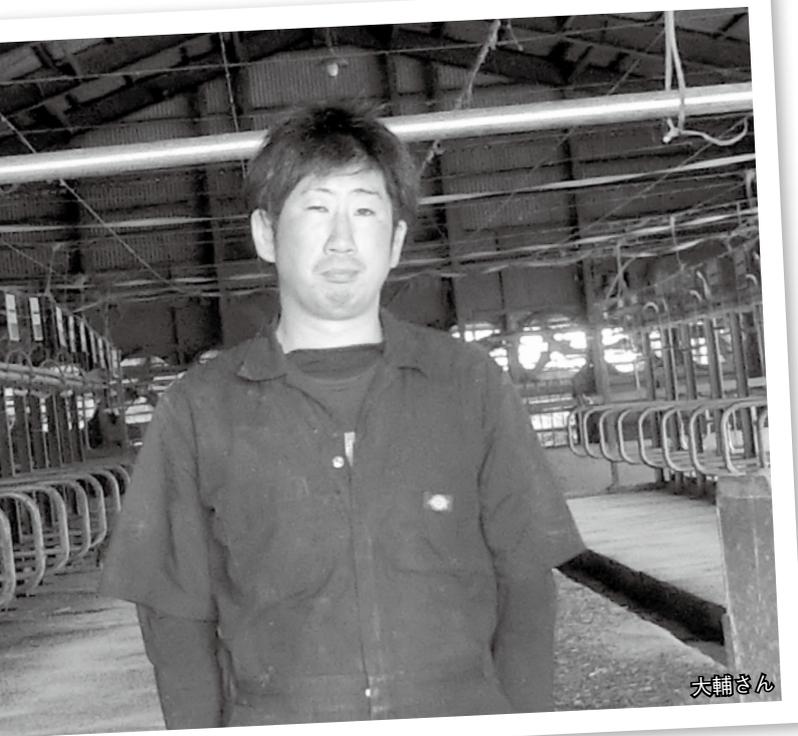
たわけではない』ということですが。酪農家の方々、並びに会員の皆様のご尽力があったからこそ、本会はカーフトップ供給開始50年を迎えられたのだと思います。

取材を通じ、『全酪連が酪農業界に対し、何を行ってきたか』を考えさせられ、全酪連は、先人の方々以上に酪農家並びに会員の皆様のお役に立てる様、精進しなければならぬと知らされました。

取材にご協力して頂きました広島県酪農協の皆様、武田牧場の武田偲様、ありがとうございます。

今回は、兵庫県神戸市西区岩岡 小泉牧場の後継者小泉大輔さんにお話を伺いました。

今回訪問した小泉牧場は、大消費地をお膝元に抱える神戸市西区岩岡にあります。この地区は都市近郊野菜の産地で今はキャベツ、ブロッコリー、ホウレンソウなど多くの春野菜が栽培されています。また、以前は酪農も盛んな地域でお父さんの晶司さんが後を継ぎ今の牛舎に移転した平成元年当時は、岩岡地区だけで20戸余の酪農家があったとのこと。今はその数も減り小泉牧場を含め5戸の酪農家が良質生乳の生産に日々頑張っておられます。



大輔さん

就農までの経緯と決め手、そして就農から今

県内の農業高校を卒業し、家が酪農家であったことから後を継ぐものと岡山県の中四国酪農高等学校に進学、卒業後約半年間北海道江別市の酪農家で実習したのち実家に戻り就農しました。28歳なので今から約7年前になりますが、特に決め手というものはなかったです。

就農前は、学校に通っていた弟が父を手伝い40頭弱の搾乳をしていました。就農後は自家育成を中心に徐々に増頭し、今は搾乳牛が58頭、1日の生乳生産量も1tから1.7tまでになりました。また、その間に増頭で牛舎が手狭になり乾乳牛舎を建設しました。

雌子牛は8か月まで哺育育成しその後は全頭全酪連の北海道預託に回しています。



牛舎全景

就農し今感じている酪農の魅力は

乳を搾れば搾ただけお金になる、また、いい乳質の乳を搾れば乳価加算や奨励金の支給、更に県の良質生乳生産コンクールで褒章されます。今年も褒賞を受けました。努力したことがお金や

ろんなことで戻ってくるのが魅力でもあり、やりがいもあります。そのためにはいい乾草をいつでも食べられるようにしてやるのが一番だと考えています。毎日殆ど牛舎において、乾草が切れないように給与したり、牛を観察したりしています。

今一番頑張っている、頑張らなくてはいけないのは

繁殖です。繁殖が悪いと搾れません。共済の先生と繁殖管理に取り組んでいます。まず、分娩後20日でフレッシュユエックを行い子宮の回復状態を確認します。状態がいいからと言って早く種付けするのはいいと思わないですが、状況を見ながら種付けをします。授精後は30日でエコーによる妊娠鑑定をし、受胎している場合は60日で雌雄判別をエコー鑑定します。また、不受胎の場合は、ホルモン注射し再度種付けを行います。残さなくてもいい系統は和牛の種を付けますが、基本はホルスタインで9割くらいになります。オスも経営にとって必要で雌雄選別精液は使用していません。

周囲とのつながり、一緒に取り組む仲間

同世代の酪農家は近くにはいませんが、一緒に食事したり情報交換したりする酪農家は県内に何人かいます。若い酪農家もついたらと思います。この地区は近郊野菜の産地で、耕種農家へ発酵堆肥を販売しています。ダンプで畑

若手後継者の 本音

Vol.25



育成牛はノビノビ



繁殖管理板



搾乳後牛舎はカラッポ



搾乳後は牛舎横のパドックでユツタリ



パドックでも乾草がタツプリ



耕種農家に人気の発酵堆肥

【経営概況】

所 属 兵庫県酪農農業協同組合(丸尾建城代表理事組合長)
 家族構成 大輔さん、奥さんの真美さん、お父さんの晶司さん
 飼養頭数 育成牛15頭、搾乳牛58頭、乾乳牛14頭

酪農で家族を守る

まで運びますが、軽トラで取りに来る農家もいます。また、家庭菜園をしている人はビニール袋等で取りに来られます。季節により余すこともありませんが、それなりに掃けています。

将来やることについていること、目標

畜産クラスター事業を利用して規模拡大を計画しており、すでに申請手続きをしています。この近くの牛舎跡地を買い取り、搾乳ロボット2台で120頭搾乳できる牛舎・関連施設を新設し、日量4tの生乳生産を計画しています。計画の当初は、パーラーにしようか、ロボットにしようか迷いましたが、その決め手は120頭規模の搾乳になると従業員が必要になりますが、従業員の確保に苦労されているなどの話を聞きその心配のないロボット搾乳することに決めました。搾乳ロボットは、アフターのことを考え今使っている搾乳機器を扱っている業者からメーカーの搾乳ロボットにし、乳成分から繁殖

管理ができる機種に決めました。そして、早く120頭搾乳ができるよう自家育成による後継牛の確保に努め、将来は自家授精にも手掛けていきたいと考えています。

そして、1番の目標は、2年前に真美さんと結婚、5月には第1子が誕生予定ですので、家族をしっかりと守っていくことです。

もう一つ、魚釣りが趣味でアオリイカを釣ったりサビキ釣りをしたりしていますが、今年は大きなタチウオを釣るのが目標です。

お父さんから一言

「何もいふことはない。頑張つてやれ。ただそれだけです。」とのことでしたが、自分と同じように後を継いでくれ、規模拡大という大きな投資をこれからしていくこと

になります。父親としては嬉しくもあり、頼もしくも思われているようです。親子が力を合わせて進んで行かれることと思えます。

全国の若手後継者の皆さんへ一言!

一つの出会いを大切にしていきましょう!



酪農との かけはし



第7回 農業共済獣医師

愛情をもって 牛と接する獣医さん

まるやま ともみ
丸山 知美 さん

上越農業共済組合 上越家畜診療所 獣医師
平成15年3月岩手大学農学部獣医学科卒業、同年4月より上越農業共済組合に採用され従事している。

仕事内容

酪農家および和牛農家の診療業務・繁殖検診業務、損害防止・保険業務

テレビ新潟が牛のお医者さんになりたいという夢を持った少女に26年間密着取材し、平成26年にドキュメンタリー映画として制作された『夢は牛のお医者さん』。平成20年に結婚され出産を経て、現在も獣医を続けられている丸山知美さんの今に、インタビューをさせていただきました。

その職業に携わるようになるまで

松代町助平地区（現在は十日町市）の助平あきひら小学校の3年生だった頃、全校生徒は9名で、その年の新入生は0



人でした。今で云う『生活科目』における有名な先生が校長を務められていまして、いない新入生の替わりにホルスタイン種の雄子牛を3頭入学させました。まだ生後2か月未満で

入学した子牛達は、時に下痢をしたり、尿石になったりしました。実家では和牛繁殖もやっていたこともあり、調子を崩した子牛達の面倒を看ては「治してあげたい」と思うことは自然なことであったし、小学校を卒業する頃には「獣医になりたい」と口に出すようになっていました。

小学校4年生の年には全校生徒が6名になり、羊が6頭入学してきました。またその翌年には母豚を借りてきて、小学校で子豚を産ませて育て始めました。このような取り組みは、現在でもたくさん小学校で盛



んであり、『夢は牛のお医者さん』の自主上映をすると言っては頻繁に、講演に呼ばれてしまいます（苦笑）。



丸山 知美さんの 1日のタイムスケジュール

7:30 ▶	こどもの送迎
8:10 ▶	事務所出勤、事務仕事
9:30 ▶	外 勤 (診療業務・繁殖検診)
15:00 ▶	
17:30 ▶	事務所戻り、カルテ作成、事務処理
20:00 ▶	退勤して、こどもの送迎
	帰 宅

全国の酪農家に 一言!

アニマルウェルフェアという考え方は普及されてきていますが、牛をあまり機械部品のように捉えずに愛情を持って飼養してほしいと思います。「あそこの(牛舎の)牛にはなりたくない。」みたいな飼いはしないで欲しいです。愛情を持って管理してほしいです。

糸魚川から上越、妙高という地域で酪農家や和牛農家で業務を行っています。乳牛頭数はあまり多くありませんし、高齢化も進んでいます。ただ、上越家畜診療所というのは昔、農畜獣医師の研修施設も兼ねていましたので、地域の畜産農家さんは、若くて経験の浅い獣医師に

自分の仕事と酪農との関わり

若い頃は、実家の田植え、稲刈り、牧草収穫、ワラ集めをやらされ土日も無く、「嫌だな」と思っていました。その中、実家の和牛達も病気が多かったのです。改めて将来を考え始めた時にはやはり「獣医になりたい」と思っていました。



してとても寛容で「ウチの牛を使っ
て良いよ。何でもやってみるよ。」
と言ってくれました。また親が地元
ということもあり「あっこんちの娘
か!」と、とても優しくしてくれま
した。残念ながら後継者はあまりい
ませんが、水田と酪農を併せた経

映画の内容は「夢を持って叶えました。」という事なので、小学校の先生方からは教材としても好評なんですが。あまり明るい話題の少ない畜産業界の中、上越地域また全国の畜産関係者やいろんな人から「明

—— 実際、改めて映画化されてその後、反響はいかがでしたか？

営、借金をあまり残さずにゆっくりと経営されている方が多いです。



絵・成瀬政博

るい話題だったよ。」って、畜産のイメージを少しでも良く出来たのではありませんか。本当は凄く恥ずかしかったんですけど(笑)。

組織と内部統制②

1

もし、内部統制がなかったら

こうした「仕組み」、つまり「内部統制」が組織の中になかった(構築されていなかった)ら、どんなことになるのでしょうか？

まず考えられることとして、

1. 業務の非効率化

管理がしっかりしていないために、社員職員各自が勝手に業務行動して、コントロールが効かず、野放し状態になり、組織としてバラバラな状態になります。無駄遣いや、公私混同の常態化、事務ミスの多発などが起り得ます。

2. 不祥事の温床

ちょっとしたものでも会社資産の私的な流用、経費の水増しなど、不祥事の温床を作ることになり得ます。

3. 不正確な財務会計帳票

普段の電算入力業務や財務会計管理が徹底されないために、ミスや間違い、虚偽表示が見過ごされていて、事実でない会計帳票を作成してしまう、あるいは粉飾決算や、資金繰りが不明になるなどの問題が起り得ます。

2

小さな組織も内部統制は必要なの？

上記のような問題は、外からはなかなか見えないものです。そのために、組織内をきちんと統制のとれた状態にしておくことが、健全な組織運営に非常に重要だということです。

組織の規模が小さいうちは、トップが職員の行動を把握することは、そんなに難しくはありません。

でも、職員が増えてくると、トップと職員の間で、コミュニケーションが取りにくいという問題が起ってきます。

小さい組織では、経営者がすべての判断を行い、職員を管理できましたが、組織が大きくなると、そうもいきません。

そこで、権限を委譲し、役割分担を決め、業務上のエラーを予防するために、組織内に様々なルールが必要になってきます。

その「ルール」と「ルールを遵守させること」こそが、内部統制だというわけです。要するに、外部の人間に管理してもらうので

はなく、組織内部、部署内部で、きちんと統制が取れる、自己修正、軌道修正ができる状態を維持するということです。

逆に、内部統制という言葉を意識しなくても、自然と内部統制が取れているのが、以外にも中小企業といわれたりします。

なぜなら、そうした部分は、中小企業の場合、ほとんどが経営者自身が行っており、会社全体に目配りをしています。事実小さなJAでは人的要因から組合長自らが統制もして、チェックもしている例があります。

つまり規模が小さいだけに、組合長一人が目を見守らせているだけでも、十分「内部統制」の機能を果たしているのが、逆に中小組合の強みなのです。

そもそも内部統制という言葉や概念の基本になるものが投資家保護という観点から発生しているとして、一部上場企業に適用され、中小企業や民間会社でない組織や農協には関係ないと思っている人も多いと思います。

その投資家と言っても様々です。会社が創立してからずっと株を保有している、まず株を売ることとは今後もない安定株主から、今日は株主だけど明日は株を売却して関係ない人になる株主まで全員株主です。そのような投資家は保護されるのですから、毎月出たり入ったりする出資者ではなく、ほぼずっと出資者であり続けてくれる組合員が大半の農協であれば、それらの組合員に迷惑をかけることがないように、規模の大小に関わらず、組織としてしっかりとした、嘘偽りのない事

業運営をしていく必要性があり、「内部統制」は必須事項といえます。

3 内部統制の構築

大企業のように、大々的にITを整備したり、多くの資金を必要とする内部統制は構築しにくいものです。

しかし、内部統制の基本になった米国COSOと日本版COSO(日本版SOX法)によれば、内部統制とは取締役会、経営者およびそのほかの職員によって遂行される

- ・ 業務の有効性・効率性の確認
- ・ 財務諸表の信頼性確保
- ・ 関連法規の遵守
- ・ 資産保全

と述べられています。

驚くようなことではなく、組織が仕事をしていくうえで当たり前、基本的な事であるともいえます。

中小組織において、一般的にセルフコントロールのできる組織を作るために経営者が必要なコストをかけてやるべき内部統制は、以下のようなのを考えられます。

- ・ 経営理念の周知徹底
- ・ 職員教育を徹底
- ・ 業務規定、マニュアルの整備
- ・ 業務の標準化

- ・ 承認システムの整備(自己承認の牽制)
- ・ 業務処理を複数人間でチェック、承認
- ・ 一人に業務集中させず業務プロセスを細分化し分業の実施

・ 適切な情報システム対応と整備

・ 定期的な人事異動で一つの業務を、長期間特定の人間が担当しない

・ 業務に集中できる職場環境作り

・ 組織内のホウ・レン・ソウ(報告・連絡・相談)を徹底

・ 実績見込と実績がかけ離れた時の理由の徹底説明

右記の事は、聞けば当たり前のように思いますが、案外、組織では仕組みとして動かせていないところも多いものです。

しっかりとしたルールを設定し遵守を徹底すれば、業務を効率化させ、ミスを事前に防ぎ、不祥事の温床を断ち、正確な決算書類への作成に繋がるのが期待できるのです。

そしてこれらを行うことは、将来のさらなる成長へ向かう階段を登ることになります。

以上のことが、経営者がリーダーとなり、積極的に内部統制の構築に取り組むべきとされている理由です。

4 内部統制システムにおける限界

し注意点としては、コストがかかること、そしてあくまで人が行う事から統制を構築したからと言って完了ではありません。それをチェックする内部監査も重要になってきます。内部監査は統制がうまく機能しているかをチェックしてうまく機能している、うまく機能していないという結果を経営者に報告して、経営者が、もうまくいっていない点があるならばその点を修正して再度統制していくというPDCAサイクルを永遠に回していくことになります。

限界があるとすれば

- ・ いくらシステムを構築しても所詮、人によって行われることなのでミスが出現する可能性。

構築するためには人、物、手間、つまり金がかかります。費用との兼ね合いバランスを判断する必要があります。費用を掛けすぎると無駄。その費用によって会社の生命力が下がってしまつては本末転倒。しかしある程度、費用をかけないと機能しないですからグローバルスタンダード(世間一般に横に做え)ではなくコーポレートスタンダード(自分たちの身の丈に合ったものを構築)を構築するために、会計監査人が何に関心を持っているのか、重要な勘定科目は何かを特定してリスク評価して対応していく必要があると思います。

内部統制はどのような事をしなくてはならないかと漠然と見えてきたかもしれません。しか

見て歩紀

No. 288

インクリースフィールド
増田牧場
北海道阿寒郡鶴居村

こだわりの新牛舎で ゆとりある家族経営を目指して

地域紹介

タンチョウの飛来地で知られ、特に冬は優雅な姿を目当てに大勢の観光客が訪れる北海道釧路管内鶴居村。北海道釧路総合振興局管内の阿寒郡にある村で、釧路総合振興局管内では唯一の村となっています。村

北海道阿寒郡鶴居村



▲ 増田一真さんと奥様のゆみさん、長女の咲空ちゃんと長男の一元くん



▲ 牛舎全景

名の由来は、特別天然記念物タンチョウの生息・繁殖地であることから、鶴（アイヌ語でタンチョウ）が居る村として鶴居村と名付けられたそうです。産業は、乳牛を主体とした酪農専業形態がほとんどであり、多頭数飼育による近代化経営が進められ、環境と調和した農業の推進を図りながら、快適で住みよい農村環境の実現と足腰の強い酪農経営を目指しています。

牧場概要

今回ご紹介するインクリースフィールド増田牧場は、釧路丹頂農業協同組合（武藤清隆代表理事組合長）に所属しており、経営主の慶一さんと後継者の一真さん（かずまさ）が営んでいます。経産牛90頭（うち搾乳牛80頭）、育成牛80頭の計170頭のほ



か本州の牧場から預託された育成牛70頭を飼養（5ヶ月齢で預かり分娩2ヶ月前の24ヶ月齢で戻す）しており、飼料畑面積は採食地81ha、トウモロコシ畑15haの計96haを有しています。



ゆみさんも、今後は一真さんの手助けをしていく予定でいるそうです。経営の中心を担う一真さんは大学卒業後、中学校で体育教員を3年間勤め、その後十勝管内豊頃町の山口雄峰牧場で1年間実習し、5年前に

1頭当たりの年間平均乳量は10,000kgで、2016年の出荷乳量は650tでした。牛群の平均体型得点は84・2点と高く、現在はEX牛2頭、VG牛25頭を飼養しています。慶一さんがシヨーに熱心に取り組んできた成果であり、かつて北海道ホルスタイン共進会で1等賞1席を獲得したインクルースフィールド・クリスタルメードの系統が現在、牛群の半数以上を占めています。労働力は、慶一さん、久子さん（61歳）夫妻と一真さん、ゆみさん（34歳）夫妻の4人で、作業分担は、搾乳作業および搾乳牛と育成牛の飼養管理を慶一さん、一真さんの2名が担当しており、哺育管理を久子さんが担当しています。現在、子育てに奮闘中の

Uターンして就農しました。いずれ後を継がねばと考えていた一真さんでしたが、就農の決め手になったのはゆみさんの一言「どうして酪農を継がないの！」だったそうです。後継者として、一真さんの闘志にも火がつき、これから家族のためにやっ

ていくぞ！を覚悟を決めました。

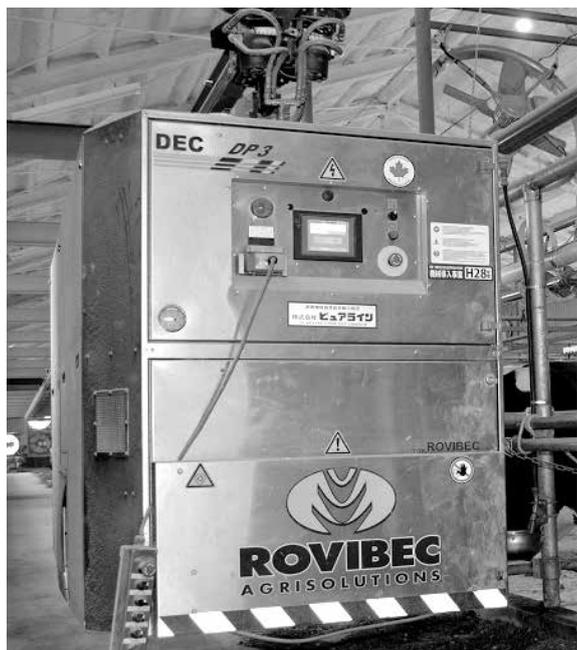
新牛舎稼働

一真さんが後継者として成長したことで昨年の2016年9月、80頭の新牛舎を新築し増頭を図りました。新牛舎は赤色とネイビーカラーを基調としたメリハリのある配色を施しており、屋根の高さは約



▲屋根が高く広々とした牛舎内部





▲ロビベック自動給餌ロボット

12 mと高く設けていて誰もが目先を奪われる建物になっています。

つなぎ飼養のメリットは個体管理が容易でかつ牛体を清潔に保てることで、もちろんシヨを意識しての選択でもありました。牛がゆったりできるように牛床の幅を135 cmと広めに取ったほか、換気を良くし、暑熱・寒冷対策と結露防止のために屋根裏全体にウレタンフォームを吹き付けするなど飼養環境の向上を意識した構造となっています。

家族労働を基本としながらゆとりをと考え、省力化にもこだわっており、株式会社ピュアラインのロビベック自動給餌ロボットとサイレー

ジストッカー2台を導入しました。ロビベック自動給餌ロボットは、リール式攪拌装置で餌を傷つけないため嗜好性が良いまま給与することができるとのことです。一真さんがこだわって導入したものです。サイレージと配合、単味を給餌ロボットが自動で積み

込み、1頭ごとに設定した分量を1日6回に分けて給与します。主な人力は、1日分のサイレージをサイレージストッカーに投入する毎朝30分程度と、個体別の泌乳量や餌の食い込み量から、給与量を変更するデータ入力作業のみとなっています。機械化によって軽減できた作業時間を牛の観察時間にまわし、今後は繁殖成績の向上を課題に奮闘しています。

新牛舎が稼働してから早くも半年が経過し、牛のコンディションが良いいことを実感している最中とのことでした。この新牛舎でこれから頑張っていくんだと気合を入れて毎日の作業に励んでいるそうです。

今後の展開について

新牛舎が稼働して早くも半年が経過しました。1頭あたりの乳量も安定しており、今後はまず個体乳量12,000 kgを目指します。また、

野に入れていきます。一真さんは、家族も牛も健康であることが何よりと感じておられ、今後もなるべく家族の負担軽減を考えて、ゆとりのある経営を営んでいくことを目標とされています。

体格審査においても平均85点以上の牛群づくりを目標に掲げて、改良にも力を注いでいくつもりです。自動給餌機の導入により以前よりも省力化に繋げることができたので、その時間を繁殖や個体管理に充てて牛のコンディションを高めていきたいと考えています。

現在はお両親の力も借りて家族経営で成り立っています。が、いずれは従業員も視



▲北海道ホルスタイン共進会で1等賞1席を獲得したインクリースフィールド クリスタル メード号

札幌
支所発関口真也さん・田村純子さんが全国へ!!
～「第45回北海道酪農経営発表大会」開催～

3月28日(火)、札幌市「京王プラザホテル札幌」にて北海道酪農青年女性会議主催、第45回北海道酪農経営発表大会が開催され、全道より関係者合わせて約40名が参加しました。

今年度は、酪農経営発表で枝幸町の関口真也氏、酪農意見・体験発表で紋別市の田村純子氏の発表がありました。

酪農経営発表の関口氏は当日やむを得ず欠席となりましたが、委員の代



▲ 池田委員長による開会挨拶

読により「酪農、誰もができる楽農へ」と題して発表が行われました。関口氏は現在、ご両親と奥様、従業員1名で、経産牛70頭、育成牛34頭という規模で経営をされています。草地管理から採食状況の確認、疾病の早期治療、肢蹄管理を徹底することで多産を目標とするとともに、自家育成を基本とし血統の改良にも取り組んでいます。また、誰でも作業ができる酪農を目指してそれらの作業を効率的に簡素化し、従業員にも覚えやすい工夫をしています。将来は省力化機械の導入により作業時間を短縮するとともに、パートタイムの雇用に対応できる作業環境を整備することで労働力を確保し、酪農を知らない人に「酪農」が難しく大変な仕事でないことを伝えていきたいと考えています。

酪農意見・体験発表では、田村氏が「持参金回収からの酪農夢歩きへ」と題して発表を行いました。畑作農家の後継者として育ちながらも、「最悪な職業」というイメージであった「酪農家」のご主人と出会い、ご両親の反対を押し切りご結婚されました。当時の田村牧場は大変な経営難であり、経営移譲された時には巨額の負債を抱えた状態からのスタートでした。そのような中でも、仔牛の管理や複式簿記の勉強を始め、負債解消に向けて努力し続け、数年後には夢であったフリーストール牛舎を完成させます。さらに、アメリカでの酪農視察により将来の酪農ビジョンを明確化され、酪農技術を磨きながらも酪農

を楽しみ、その楽しみを多くの人に伝えてきました。借入金償還の完済に目途がたった現在は、次の夢に向かってご夫婦で力を合わせてさらに前進されています。

両名の貴重な発表に、会場からは大きな拍手

が送られました。また、大会と同時に行われた講演会では、(有)ファーム花茶 小栗美恵氏を招き、「夢を紡いで」と題して講演をいただきました。高知県から千歳の農家へ嫁ぎ、自立のために始めたイチゴ狩り観光農園が、現在はソフトクリームやファームレストランを展開しながら地域の交流の場にもなっているファーム花茶。地域や行政をも動かしてきた小栗氏の原動力やその苦勞に、参加者は熱心に聞き入っていました。

審査講評においては、1名ずつの発表ではありましたが、どちらの発表も大変すばらしく北海道代表として全国大会へ胸を張って送り出せる内容との評価をいただきました。両名は北海道会議の代表に推薦され、7月に札幌市にて開催される、第46回全国酪農青年女性酪農発表大会に出場されます。(T.H)



▲ 田村氏による発表の様子



▲ 講演会での小栗氏



▲ 会場の様子

仙台
支所発

「第46回東北酪青女酪農発表大会」開催される 東北代表は田中進さん(福島県)、高橋俊太さん(宮城県)

去る3月21日(火)～22日(水)、秋田県鹿角市の「ホテル鹿角」にて、東北酪農青年女性会議(半澤善幸委員長)主催の第46回酪農発表大会が開催され、当日は100名を超える酪友が東北各地から参加しました。

酪農経営発表では2名の発表があり、『最小限の労力で最大限の利益を追求』と題した宮酪青年婦人連絡協議会の荒修^{あらしむ}さんは、適正な後継牛頭数確保のための性判別精液の活用や牛受精卵移植による副産物の価値向上に取り組み、将来はゲノム解析を活用した牛群改良を目指し、生乳販売、個体販売、受精卵販売を3本柱として経営に厚みを持たせたいと発表されました。

『開拓精神を受け継ぎ、酪農共同体として次世代へと継承 ～地域営農の持続性を求めて～』と題した福島県酪農青年研究連盟の田中進さんは、持続的な営農生活を守っていくために選択した共同経営で、堆肥の流通や耕作放棄地の自給飼料畑の再生などに取り組むコントラ事業や、地元の未利用製造粕の飼料への活用など、開拓地で受け継がれた生産基盤を守る姿を発表されました。

発表された2名はいずれも優れた内容でしたが、コントラクターの運営や自家産後継牛の確保、将来は後継牛の供給による地域への貢献を目指し、次世代への経営移譲も考えている点などが高く評価された田中進氏が最優秀に選出され、全国大会に出場することと

なりました。

続いての酪農意見・体験発表では4名が発表され、あきた北部酪農青年婦人会議の小林大峰さんは『戦後開拓70年 私の選択 ホルスタインとともに』と題し、幼いころからの牛への愛情を忘れることなく子牛からミルクを分けてもらっている気持ちを大切に、地域交流や酪友との活動を積極的にこなしている姿を、みやぎの酪農青年部・婦人部の高橋駿太さんは『自分の目標に向かって牛と共に歩む』と題して、実家に戻った際に感じた理想と現実のギャップに悩みながらも、母校の恩師の言葉に励まされ管理・改善に奮起し、結果が出ることへのやりがいや魅力を発表しました。山形県酪農青年婦人会議の山口綾子さんは『波乱万丈私の人生』と題し、多額の借金返済に追われながらも毎年の家族旅行を大切に、子育てが終わった今は「酪農家に嫁入りしやすい環境を作り子育ても出来る」家族が増えることを願う気持ちを発表し、最後の福島県酪農青年研究連盟の渡辺幸子さんは『私の成長は人との出会いから』と題して、若い頃の青年団活動での出会い、地域活動での出会い、更には海外交流事業で訪れたポーランドの女性との今でも続く出会いなど、多くの出会いで支えられた半生を発表されました。

結果、東北代表には高橋駿太さんが選ばれ、全国大会へ出場となりました。(I.M)



▲ 田中進氏(福島県)



▲ 高橋駿太氏(宮城県)



▲ 発表者の皆さん

東京
支所発

「第46回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会」開催 関甲信代表は、関岳彦さん、前田匡彦さん

関東甲信越酪農青年女性会議（小森崇宏委員長；栃木県）は、平成29年3月22日(水)23日(木)の両日、群馬県伊香保温泉「ホテル天坊」において、管内の酪友・関係者165名の参加を得て、第46回酪農発表大会を開催しました。

大会は、須藤淳子委員（群馬県）の総合司会、秋山順子副委員長（埼玉県）の開会宣言で開会しました。南波留一志監事（茨城県）による綱領唱和のあと、小森委員長より主催者の挨拶がありました。来賓として農林水産省関東農政局生産部畜産課杉山喜実課長（酪農経営発表 審査委員長）、群馬県農政部畜産課平井光浩次長、公益社団法人群馬県畜産協会糸井浩専務理事、群馬県酪農業協同組合連合会大久保克美会長より祝辞がありました。

酪農経営発表は、群馬県代表の安田良さん（㈱アラトデイリーファーム社長）、茨城県代表の関岳彦さんの2名が発表されました。安田さんの経営は経産牛250頭規模の企業経営、関さんの経営は経産牛40頭規模の家族経営ということで、好対照の経営発表でしたが、お2人とも素晴らしい経営成績でした。酪農意見・体験発表は、埼玉県代表の嶋田早苗さん、長野県代表の宮島裕紀子さん、栃木県代表の前田匡彦さんの3名が発表されました。50代、40代、30代と異なる年代でしたが、それぞれの立場で経験・体験し

てきたこと、今取り組んでいること、これからの目標等々熱心で心を動かされる発表でした。発表終了後は、発表者と会場参加者との意見交換会（質疑応答）が行われ、1日目の日程を終了しました。夜は懇親会が開催され、席を移動しての酪農談議に花が咲き、また恒例のビンゴ大会でとても盛り上がりました。

2日目は、審査講評と表彰式が行われました。酪農経営発表は、お2人とも高い産乳成績を上げておられ差がないところでしたが、デントコーンやイタリアンの自家産飼料で高い収益性を確保されていることが評価されて、茨城県の関岳彦さんが最優秀賞に選ばれました。酪農意見・体験発表は、審査は困難を極めたようですが、東京の町工場生まれながら保育園の芋掘り体験で「畑のおじさん」になりたいと夢を持ち、酪農へと形は変わりましたが夢を実現し、自由学園那須農場の若い場長としてさらなる飛躍が期待されることが評価されて、栃木県の前田匡彦さんが最優秀賞に選ばれました。次回の開催県である新潟県の江部広大副委員長の閉会の挨拶で、2日間の大会日程を終了しました。

関さん、前田さんは、7月13日(木)～14日(金)に札幌市で開催されます第46回全国酪農青年女性酪農発表大会で、関東甲信越代表として発表されます。全国大会でのお2人のご活躍をお祈りいたします。（I.Y）



▲ 左から、経営発表の部 安田さん、関さん、意見・体験の部 嶋田さん、宮島さん、前田さん



▲ 開会式の様子



▲ 会場の様子

福岡
支所発

待望の舞台がついに開催！ ～「第46回九州酪農青年女性酪農発表大会」～

4月11日(火)～12日(水)の両日、九州酪農青年女性会議（小菌千弘委員長）、全酪連福岡支所共催の「第46回九州酪農青年女性酪農発表大会」が、宮崎県シーガイアコンベンションセンターにて開催されました。地震により2年ぶりとなる酪農発表大会は昨年開催されることになかったこの宮崎の地に例年を上回る約230人の酪友が集まり、盛り上がりを見せました。

開会式では、小菌委員長の挨拶の後、来賓の農林水産省九州農政局生産部畜産課から桑原芳彦課長、宮崎県農政水産部畜産新生推進局課から花田広課長、宮崎県経済農業協同組合連合会から壹岐定憲副会長がご祝辞を述べられ、発表に移りました。

酪農経営発表の部は、長友佳奈美さん（宮崎県）、比嘉友明さん（沖縄県）、岩見智成さん（大分県）の3名が発表され、中山間地域や暑熱対策が必要の地域など、比較的酪農の難しい地域で酪農を行うために工夫されてきた内容を披露されました。また、酪農意見・体験発表の部では、後藤みどりさん（熊本県）、古川美恵子さん（佐賀県）、南谷勝志さん（鹿児島県）、掘越直人さん（長崎県）、池松大地さん（福岡県）の5名が発表され、酪農経験の長いベテランの方から、これからの酪農を支える若手酪農家の方、先祖代々の酪農を継承していこうと奮



▲ 小菌委員長

▲ 質疑応答にて回答される
後藤みどりさん

闘される方、様々な選択肢の中から九州の地を選び、積極的に行動される方など、様々な発表者の熱意ある話に会場は耳を傾けていました。

発表終了後、夕刻からは、地元宮崎県のマスコット「みやざき犬」によるダンスパフォーマンスののち、宮崎県経済農業協同組合連合会の船ヶ山参事より、ご挨拶と牛乳による乾杯が行われ、交流会が和やかにスタートしました。カラオケ大会も行われ、会場では久しぶりの酪友との再会に、笑顔と笑い声が溢れていました。

2日目には、発表者への質疑応答の後、審査講評、褒賞授与が行われました。酪農経営の部の最優秀賞（九州農政局長賞）には、「未来につなげたい酪農経営を目指して～“酪農家だから”を言い訳にしない～」と題し、様々な酪農機械を導入などに力を入れ、経営の改善に努められた長友佳奈美さんが選出されました。田中正仁審査委員長（(独)九州沖縄農業研究センター畜産草地研究領域 主席研究員）は、「審査に当たって、現在の経



▲ 審査員特別賞を受賞古川さん



▲ 発表者左から長友さん、比嘉さん、岩見さん、後藤さん、古川さん、南谷さん、掘越さん、池松さん

営実績、飼養管理成績、さらに、今日の酪農情勢を踏まえ、経営の安定性・生産コスト低減への努力という視点を重視し、さらに「省力化のために機械を導入し、導入した機械の持っている情報を融合することでさらなる省力化を実現したという点と、畜産クラスター構造の利用・活用によって、ゆとりある労働環境を実現したことを高く評価します」と講評を述べられました。

酪農意見・体験の部の最優秀賞（九州農政局長賞）には「チャイムが聞こえる牧場で～幸せになるための10年間の軌跡～」と題して、苦難に負けず様々な挑戦について発表された後藤みどりさんが選出されました。内ヶ島賢勇審査委員長（九州酪農青年女性会議 顧問）は、「これからも、酪農を理解してもらおう努力を続けられ、一軒でも多くの酪農家がチャイムの聞こえる環境で酪農を続けられる様、道標になってほしいと思います。」と講評を述べられました。また、2つとも全国に持っていきたいと審査員の中から言葉が漏れるほどの発表だったとし、「あれから41年そして、これからあと何年？」と題して酪農だけでなく様々なことに意欲を燃やし

続けられている古川美恵子さんに審査員特別賞が贈られました。

また、今年度は九州酪農青年女性会議の発展に貢献された方の功労者表彰があり、川久保美保子さん（佐賀県）、新里菊也さん（沖縄県）の2名が表彰されました。

長友さん、後藤さんは、7月の全国大会で九州酪農青年女性会議代表として出場されます。（U.T）



▲ 表彰を受ける長友さん

酪政連活動報告

日本酪農
政治連盟

平成29年2月～平成29年3月

平成29年 2/16	監査会を実施(於:全理連ビル) 平成28年度決算に関する監査を実施 (会計責任者・監事・幹事長他)		本連盟の通常総会を開催 (於:自由民主党館) 第1号議案 平成28年度運動報告並びに 収支決算承認の件 第2号議案 平成29年度運動方針並びに 収支予算承認の件 第3号議案 平成29年度会費賦課方針決定の件 を上程し、全議案共に原案どおり可決承認 される
2/21	(緊急)常任・中央合同委員会を開催 ・加工原料乳生産者補給金制度改革の進捗状況について ・日EU・EPA交渉、米国とのFTA交渉の状況についてを協議(於:参議院議員会館)	3/6	
2/26	日本酪農政治連盟福島県支部連合会の 佐藤金正会長(酪政連本部監事)が福島県 川俣町長選挙に出馬し、当選	3/9	酪政連新潟県支部総会に出席 (於:酪農にいがた農協)(幹事長)
3/5	第84回自由民主党大会に参加 (於:グランドプリンスホテル新高輪)(幹事長)	3/30	岡山県酪農政治連盟美作支部総会に出席 (於:おかやま酪農協)(事務局長)
3/6	常任・中央合同委員会を開催 (於:自由民主党館) 今後の酪政連活動について協議	3/31	東京都選挙管理委員会に対し収支報告書 (平成28年1～12月分)を提出

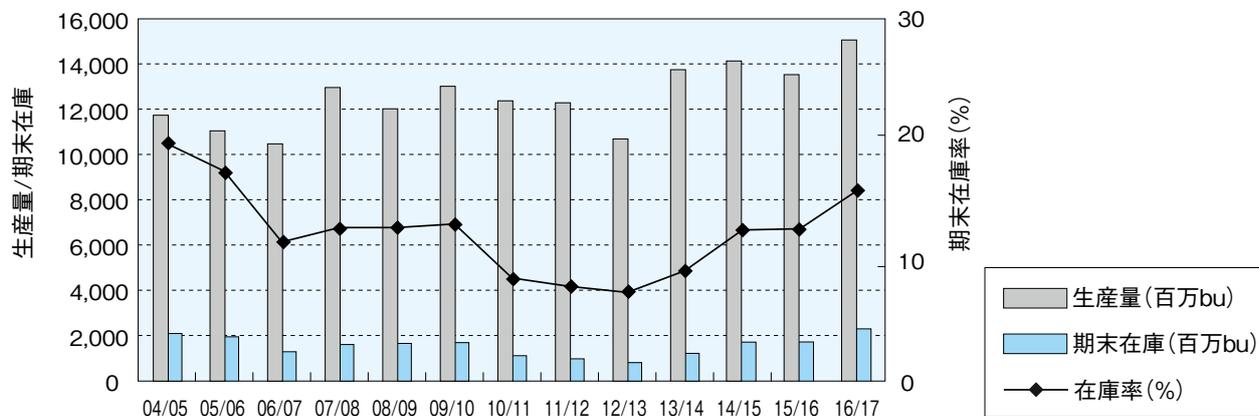


原料情勢

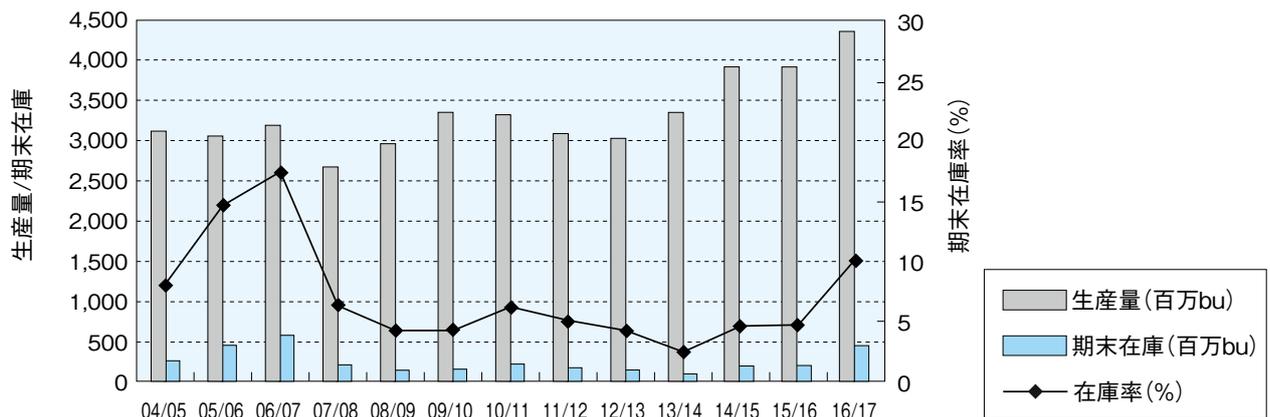
平成29年4月

4月11日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【15/16年産】 作付面積88.0百万エーカー、単収168.4bu/エーカー、生産量136億200万bu、総需要量136億6,400万bu、期末在庫17億3,700万bu、在庫率12.7% 需給両面で総じて増減なし。
	【16/17年産】 作付面積94.0百万エーカー、単収174.6bu/エーカー、生産量151億4,800万bu、総需要量146億2,000万bu、期末在庫23億2,000万bu、在庫率15.9% 需給両面で総じて増減なし。
トウモロコシ 相場動向	3月末に17/18年産の作付面積の発表があり、市場予想平均以上の減少となったため急騰した。しかし、4月に入り、南米の天候が良好で生産見通しが引き上げられると値を下げた。需要面では、米国内の飼料向けが減少し、その分エタノール向けが増加し相殺した。世界的にトウモロコシの在庫過剰という弱材料が周知の事実の中、天候悪化のような強材料が出てくると反応しやすい相場となっている。
4月11日発表 米国農務省 大豆需給予想	【16/17年産】 作付面積83.4百万エーカー、単収52.1bu/エーカー、生産量43億700万bu、総需要量40億8,300万bu、期末在庫4億4,500万bu、在庫率10.9% 需要面で減少し、期末在庫は増加。
大豆粕相場動向	米国産大豆は、需要面が若干下方修正された。当日の相場は、需給予想はほぼ市場の予想通りとなったものの、ブラジルの生産量が上方修正されたことから売られた。国内産大豆粕については、搾油量は前年並みで推移しているが、4月より食用油が値上げしていることから、今後は大豆粕発生量の減少が懸念される。輸入品に関してはインド産の競争力が薄れ、再び中国産中心になりつつある。中国内の畜産が復調傾向にあり需要も増加傾向にあるが、シカゴ相場の状況を受け、相場は軟調に推移している。
槽糠類	【一般フスマ】1-3月期、季節的な影響から製粉メーカーの挽砕が低調であり発生量が減少していたこと、前期の他槽糠類原料が値上げだったことを受け、フスマの需要が増加し需給が引き締まっている。
	【グルテンフィード】国内スターチメーカーで夏場のスターチ、異性化糖需要に向けて稼働が上がる見込みであること、置換性の高いDDGSが安価で推移していることから4-6期は値下げとなった。
海上運賃	パナマックス型市況は大西洋水域での引合い、船腹余剰感の解消から上昇して推移している。引続き石炭・穀物を中心に需要があり、中国の3月鉄鉱石輸入量は過去2番目の規模となった。相場は上値を追う展開となっており、米国-日本間のパナマックス海上運賃も上昇している。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





北米コンテナ船フレート	海上運賃一斉値上げ(GRI)の動向について、先月と同様に4月1日での値上げは、多くの船社が直前で回避しましたが、港によって値上げの幅や有無を分ける船社が増えてきています。この傾向が続くと、PNW(北米西海岸北部:シアトル/タコマ港およびポートランド港)とPSW(北米西海岸南部:ロサンゼルス/ロングビーチ港)の間の海上運賃の差がさらに乖離していく可能性があります。また、4月からの海運アライアンス再編後の、各アライアンスの船腹・集荷量も各港間の海上運賃の動向に影響を及ぼすと考えられています。
ビートパルプ	【米国産】新穀の作付は、ミシガン州やアイダホ州など早い地域で間もなくスタートする見込みです。日本向けの主力産地であるミネソタ州やノースダコタ州では4月中旬頃から作付が始まる見込みで、例年の天候であれば5月中旬には全米各地で作付が終了する予定となっています。 昨年9月に中国当局が米国産ビートパルプの輸入を正式に許可し、年明けから徐々にコンテナでの輸入が始まっているようです。中国の実需はまだ不透明ですが、米国産への引き合いは強いようです。
アルファルファ	カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、早い圃場で2番刈の収穫が始まっています。1番刈は収穫期の天候が不安定で、雨当たりの被害を受けたものが多く発生しているようです。例年、1番刈の多くは、主に米国内の酪農家向けに出荷されていますが、米国乳価の回復により需要が増加しており、中国や中東からの需要も引き続き堅調なことから、17年産の新穀価格は前年の同時期と比較すると高値で取引されています。 16年産の産地在庫については、米国内外の堅調な需要に加え、この冬、カリフォルニア州北部で雪や雨など荒天が続いたことにより、主に放牧を主体とした肉牛用の自給粗飼料が不足したことから、これらの需要も増加しており、全体の在庫は例年に比べ少ない状況で推移しています。 ワシントン州においても、カリフォルニア州と同様、米国内の肉牛向け低級品の引き合いが強く、16年産の産地在庫はほぼ成約済の状況です。新穀の生育状況は厳冬の影響を受けて雪解けも昨年よりも遅く、5月中旬頃から1番刈の収穫が始まる見込みです。新穀の作付面積には、昨年の相場低迷を受け、前年並みからやや減少と予想されています。新穀相場については、多くのサプライヤーが、特に上級品の価格について昨年に比べ強含みでスタートすると予想しています。 オレゴン州南部、クラマスフォールズでは古い圃場は転作に回るものの、新播の圃場も増えるため、全体の作付面積に大きな変動はなさそうです。
チモシー	【米国産】産地在庫はほぼ完売となっており、新穀の収穫待ちの状況です。 新穀の作付面積は、多くのサプライヤーが主産地ワシントン州ではほぼ横ばい、アイダホ州では微増と予想しています。全ては今後の天候によりますが、16年産の在庫不足に加え、引き続き日本向けや他国からの引き合いも強いことから、新穀の産地相場は昨年に比べ高値でスタートすると予想されています。 【カナダ産】今年の冬は例年に比べて非常に寒く、また12月は降雪が多く、気温は主産地の南部レスブリッジでは12月1月の最高気温が氷点下で推移する日が続きました。天候による船積みの遅れなどデリバリーの混乱は多くありませんでしたが、2016年の輸入量は77,679 t、前年比84%と大きく減少しています。
スーダングラス	16年産の産地在庫は一部の低級品を除き、ほぼ成約済の状況です。17年産インペリアルバレーの4月1日時点の作付面積は、16,465エーカーで前年同期比約80%、いわゆる早播きのスーダンの競合作物であるデュラム小麦の作付面積は前年同期比で約38%減となっています。作付面積のピークは昨年並みと予想しているサプライヤーが多いものの、昨年の産地相場は生産農家にとって満足のいくものではなかったため、新穀の相場は上昇するとの見方が強くなっています。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 3月15日に発表された作付面積は前年比14%減少となっており、昨夏からの減少が継続している状況です。16年産の産地在庫はほとんどのサプライヤーで成約済となっており、新穀の集荷待ちとなっています。このため、多くのサプライヤーは新穀の買付・商談を例年よりも早くスタートせざるを得ない状況となっています。また、生産農家の視点から見ると、過去2年の相場低迷の反動もあり、新穀価格への期待は高まっています。このため、小規模の商談では早くも昨年よりも高い価格で取引されているようです。16年産の在庫がほぼ完売である上、引き続き日本および韓国からの引き合いが堅調なことから、17年産の価格は、チモシー、スーダン同様強含みで推移することは避けられない状況です。
ストロー類	日本および韓国からの追加買付の問い合わせは続いています。多くのサプライヤーは、手元に出荷可能な在庫が無い状況となっています。背景には生産農家の強気の姿勢があり、過去の相場低迷の反動から、大幅な値上げを提示していることが挙げられます。このため、大幅な値上げを受け入れた一部の玉以外は、ほぼ出荷されていない状況で、日本国内の在庫は常時不足の状態に陥っています。新穀の相場については、高騰を見せている現行の産地相場をベースに形成される可能性が高いと考えられます。
オーツヘイ	【豪州産】各社の出荷は順調なようです。産地在庫は、上級品についてはほぼ成約済、低級品は今後の相場上昇を見込んだ、一部の生産農家が在庫を抱えていると言われていています。 豪州産ストロー類は既報の通り、収穫期に各産地で、降雨被害に見舞われ、多くは輸出不適格品となっています。これらは豪州国内で消費される見込みです。

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	50~60	→	札幌管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計91.4%、苫小牧管内月計で95.5%の実績となっております。 5月の初妊牛動向といたしまして、7月~8月上旬分娩予定の牛が中心となります。夏分娩となるため府県からの需要は落ち着いてくる時期となりますが、ここ数カ月の初妊牛相場の高騰を受けて販売者の意識が高まっていることと、道内の他地区からの購買客が多くなっていることから初妊牛価格は横ばいで推移するものと思われます。腹内容はF1腹の販売が大部分を占めるものと思われます。
	初妊牛	90~95	→	
	経産牛	50~55	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	55~65	→	根釧管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で96.2%、中標津管内月計で98.7%の実績となっております。 5月の初妊牛動向といたしまして、7月~8月分娩予定の牛が中心となり取引されます。例年であれば相場が落ち着く時期ではありますが、道内外の大型牧場の導入が引き続き見込まれる事から、相場は横這いで推移するものと思われます。資源状況としてはF1腹が中心となります。需要の増えている選別精液腹については十分余裕があるとまでは言えませんが、ご希望に添える状況にあります。
	初妊牛	85~105	→	
	経産牛	55~65	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	55~65	→	帯広管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、月計で97.2%の実績となっております。 5月の初妊牛動向といたしまして、7月~8月分娩の牛が中心で取引されます。管内の乳牛市場では道内外問わずメガ・ギガファームの購買が続いており、夏分娩の初妊牛であっても引き合いは強く、相場は高値を維持し、若干の弱含みで推移するものと思われます。腹別では府県の導入助成条件に後継牛確保を目的に、通常ホル腹もしくは雌選別精液腹が指定となっているものがでてきているため、これらの相場は強含みで動くものと思われます。
	初妊牛	90~100	⇐	
	経産牛	55~65	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	55~65	→	道北管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で98.7%、北見管内では月計で98.7%の実績となっております。 5月の初妊牛動向といたしまして、7~8月分娩中心となります。乳牛市場での相場動向をみますと、F1腹は勿論のこと、雌雄選別精液を含むホル腹の需要も高まっており、全体的に高値で推移していくものと思われます。これから夏場に向かいますが、道内外の大型牧場の需要は引き続き強いと予想されます。全体的には、例年同様、7月分娩までの需要は高く、8月分娩以降の需要は、府県の暑熱による分娩事故も心配され減少傾向になるのではないかと思います。
	初妊牛	90~95	⇐	
	経産牛	55~65	⇐	
道内総括	育成牛(10-12月令)	55~65	→	道内の4月中旬までの生乳生産量前年比は97.7%の実績となっております。 5月の初妊牛動向といたしまして、7~8月分娩予定の牛が中心となります。例年であれば都府県導入も減少し初妊牛相場も落ち着く時期ではありますが、道内においては、昨夏の台風被害の影響もあり、昨年度下期以降、生乳生産量が前年割れとなっております。その為、道内での需要も高まっている事、また道内外の大規模農場の導入意欲が依然として高い事から、初妊牛相場は横這いで推移するものと思われます。 5月下旬には放牧も始まる為、導入の予定がございましたら、早めのご注文を宜しくお願いします。
	初妊牛	90~100	→	
	経産牛	55~65	→	

今月の表紙

今月の表紙は、「第7回酪農いきいきフォトコンテスト」(第45回全国発表大会にて開催)で応募頂いた作品「小さな牧場長」(山口県 林 尚子氏撮影)です。



平成29年5月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 5月号 No.620

- 編集・発行人 大森 一幸
- 発行 全国酪農協同組合連合会
〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号
TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

編集後記



- 春がようやく来たと思ったら、気温はぐんぐん上昇。早くも初夏がやってきたかのような陽気です。
- 7月13日~14日の全国酪農青年女性酪農発表大会への各会議からの出場者12人が決まりました。発表者の皆さんの発表内容については来月号でお伝えする予定です。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



みんなかおがちがうんだよ

丹波市青垣保育園(西日本)6才 足立 雄星

今月の入賞作品は…

丹波市青垣保育園(西日本)6才の足立 雄星さんの作品です。

今回最多の24頭の牛さんを描いてくれた雄星くんの作品は題名通り一頭として同じ顔のないバラエティに富んだ牛さん達に仕上がっています。いつまで見ても飽きない、いつ見ても新鮮な発見がある面白い作品になりました。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第43回らくのうこどもギャラリー」で全国674点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議

第46回

全国酪農青年女性 酪農発表大会

in
札幌

主催 全国酪農青年女性会議 / 全国酪農業協同組合連合会

平成29年

7/13(木) ▶ 14(金)

日程

7月13日(木)

13:00~13:50 開会式
 13:55~16:15 酪農経営発表
 16:15~16:25 らくのうこどもギャラリー表彰式
 16:40~18:15 酪農意見・体験発表
 19:20~21:30 懇親会

7月14日(金)

09:00~09:10 いきいきフォトコンテスト表彰
 09:10~09:35 酪農経営発表質疑応答
 09:35~10:00 酪農意見・体験発表質疑応答
 10:15~11:35 審査講評・表彰式
 11:40~11:50 閉会式

大会参加費

1名 **13,000円** (大会・懇親会まで)
 ※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。

大会会場・アクセス

◆会場・宿泊

「札幌ビューホテル大通公園」
 旧 東京ドームホテル 札幌
 〒060-0042 札幌市中央区大通西8丁目
 Tel 011-261-0111



◆アクセス



- 鉄道の場合
 地下鉄：南北線「さっぽろ駅」より1駅「大通駅」下車、1番出口より徒歩5分
 徒歩：JR札幌駅「西改札口」より、「札幌駅前通地下歩行空間」を經由、地下鉄「大通駅」まで約15分。地下鉄「大通駅」1番出口より徒歩約5分
- 車の場合
 道央自動車道～札幌道「札幌北IC」から「国道5号」經由で4km約20分
- 飛行機でお越しの場合
 電車：JR千歳線「新千歳空港駅」より快速電車で約40分。「札幌駅」下車
 バス：空港連絡バス「新千歳空港」より約90分。「東京ドームホテル札幌前」下車

大会事務局

全国酪農青年女性会議 〒108-0014 東京都港区芝 4-17-5
 全酪連指導・企画部内 / TEL. 03-5931-8003

